

京都市図書館中学生ビブリオバトル

～中学生の読書活動推進に向けて～



京都市中央図書館（京都府京都市） <http://www2.kyotocitylib.jp>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	京都市中京区聚楽廻松下町9-2
電話番号	075-802-3133
人口（図書館が所在する市町村）	147万人
職員数（うち有資格者数）	35人（27人）
蔵書数	317,065冊
登録者数	66,168人
年間貸出冊数（H24）	775,566冊

目的・趣旨

中学生をはじめ、ティーンズ層の読書離れが課題とされる中、楽しみながら様々な本に出会えるばかりでなく、言語活動の充実も期待できる「ビブリオバトル」を実践・普及することで、読書の魅力を伝えていく。

取組概要

●職員ビブリオバトルで試行

「まずは実際にやってみよう」ということで、平成24年度から職員ビブリオバトルを月1回程度実施。最近では、「図書館職員ビブリオバトル」として、一般公開するまでに発展。

●職業体験に来る中学生に実施

平成24年度から職業体験に来ている中学生に体験してもらうため実施。観戦者は当館の職員や、生徒たちの学校の教員に呼びかけて行っている。

のべ実施回数 9回

のべ参加校数 22校

のべ発表者人数 45人

●全市的に普及啓発を図るため、平成25年4月の子ども読書の日記念事業にて中学生ビブリオバトルを大規模に開催

発表者中学生 7人

観戦者 108名



発表者の様子

特徴

●ビブリオバトルの実践から

<楽しいものである>

まず、中学生たち自身が楽しいことが大切。お気に入りの本を題材にゲーム感覚で競い合うことに魅力がある。この「勝ち負け感」が子供たちの意欲・向上に火を点け、楽しむことの原動力になることが実践からも感じられた。

<「共感」を通して本と出会い、コミュニケーションが深まる>

書店や図書館に並べられている本、親から勧められる本、好きな芸能人が書いた本など、子供たちの周りには本が溢れているが、実際に「出会える」ことは少ないのではないかと。どうすれば出会える機会を増やせるのか。

それには、「共感」が大切である。子供たちにとって、同世代の友達が話す言葉、情報、価値観はとて受け入れやすい。同世代同士でお気に入りの本を持ち寄り、楽しい雰囲気の中、共感しやすい形で本の内容が紹介されることで、本と出会える機会が増える。

そして、友達の今まで知らなかった一面が垣間見え、コミュニケーションが深まることもビブリオバトルの良さである。

<言語活動の充実など高まる期待>

5分間で気持ちを込めて紹介することは、プレゼンテーション能力の向上に繋がり、懸命に人の話を聞き、質問することは、聞く力の向上に繋がる。

ビブリオバトルは言語活動や集団活動の充実にも非常に有効なツールと考えられる。



職員ビブリオバトル

取組の成果と今後について

ビブリオバトルを実際に行うと、子供たちは緊張し、言葉に迷いながらも、自らが選んだ本について懸命に紹介し、ほとんどの子供たちが「楽しかった」と喜び、終了後、子供たち同士の距離が近くなることを実感する。平成26年度から実施する「第3次京都市子ども読書活動推進計画」においても、読書量の減少する中学生への対策に重点を置いており、今後もビブリオバトルがもつ有用性について学校と連携を図りながら、普及・啓発に努めていきたいと考えている。